

会 議 録

1 会議名	平成19年度第7回宇都宮市上河内自治会議
2 開催日時	平成20年3月27日(木) 午後2時～4時
3 開催場所	宇都宮市上河内地域自治センター2階会議室
4 出席者	【委員】江連俊, 手塚敏子, 沼田良, 古橋悟一, 青木定夫, 江連功, 小嶋耕一, 斎藤功, 佐藤きよ子, 塩井洋子, 柴田征男, 手塚光彦, 古橋正好, 松田仁一, 大木清茂, 小野三朗, 北見幸夫, 佐藤和男 【事務局】上河内地域自治センター所長, 参与, 地域経営課長, 地域経営課主幹, 地域経営長補佐 ほか12名
5 公開・非公開	公開
6 傍聴者数	【傍聴者】なし 【記者】なし
7 会議経過	1 開会 2 会長挨拶 3 諮問 合併市町村基本計画の執行状況について 4 報告事項 (1)合併市町村基本計画の執行状況について(19年度答申分) (2)上河内地域自治センターにおける当初予算の概要について 5 協議事項 答申に向けた今後の対応について 6 その他 7 閉会

議 事	
3 諮問	合併市町村基本計画の執行状況について (宇都宮市上河内自治会議へ諮問)
4 報告事項	(1)合併市町村基本計画の執行状況について(19年度答申分)
会 長	・「合併市町村基本計画の執行状況について」を事務局より説明願いたい。
事務局	・平成19年度に答申した「合併市町村基本計画」における13主要事業の内容と進捗状況などについて説明する。 ・道路新設改良事業については、道路ネットワークを構築するため

の幹線道路や生活道路の整備は、地域の発展に欠かせないことから、前期5年間で着手することを要望した。今年度は幹線道路3路線、生活道路3路線について事業が進められ、今後は毎年度、一定の額を予算化し、計画的に整備することを予定している。

- ・ スマートIC恒久設置事業については、今後の高速道路を利用した地域の振興に期待をしていることから、スマートICへの接続道路の早期完成に向け重点的な整備を要望した。今年度は用地測量委託等が行われ進捗率45%となっており、今後計画期間内の整備を予定している。
- ・ 上水道事業統合整備については、効率的で効果的な給水を可能とするため簡易水道と専用水道の統合整備を早期に実施することを要望した。今年度は「水道拡張事業計画」の見直しに向け、課題や検討すべき事項を整理し、合併後の財政状況を踏まえ今後3年以内に、原則として宇都宮市の制度を基準に新しい「水道拡張事業計画」を策定する予定である。
- ・ 公共下水道整備事業については、地域の水質保全のための生活排水の適切な処理や下水道の整備区域拡大に向けた推進を要望した。今年度は公共下水道污水管渠築造工事として中里町等の工事を実施、今後は公共下水道全体計画を前倒しして見直し、公共下水道による整備区域を明確にしたうえで、順次整備することを予定している。
- ・ 児童の健全育成環境の整備については、上河内中央小学校の敷地内に放課後児童の健全育成のための施設整備が進んでいるが、他の2校においても早急な整備を要望した。今年度は上河内中央子ども家の施設が完成するとともに、上河内西子ども家の移行準備をしている。今後の施設整備については、施設の狭隘化や老朽化などの緊急性、利用児童の安全・安心な生活の場の確保、既存施設の有効活用等を総合的に勘案し、検討する。
- ・ 中学校校舎整備事業 中学校体育館整備事業については、特別教室と体育館が昭和40年代前半の建物であるため耐震補強が課題となっている。そのため校舎の耐震補強に併せたバリアフリー化や武道場を備えた体育館の整備を要望した。今後については耐震補強について、平成27年までに全校を完了させ、優先性を精査し実施する予定である。
- ・ 生涯学習センター整備事業については、生涯学習センターと体育館が建築後30年経過し老朽化していることから、生涯学習活動の

拠点とスポーツ活動の拠点を併せ持った生涯学習センターの早急な整備を要求した。今後は今年度策定の「宇都宮市地域教育推進計画」を踏まえ、平成20年度以降、生涯学習センターの整備の内容や優先順位等を整理し、計画的な整備を検討している。

- ・ 中里原土地区画整理事業は、優良な宅地の供給を図り地域への定住を促進する有効な事業であることから、早急な整備を要望した。今年度は水路築造工事等に着手し、今後は計画期間である平成22年度までに順次整備していく予定である。
- ・ 農産物直売所等整備事業については、都市間交流ができる拠点の整備や地域の特性を活かした農産物直売所等の整備を要望した。今後は整備手法や整備場所等について、全市的な観点から検討するとともに、「総合的な農産物直売所」は関係機関などとあり方を、「地域の農産物直売所」はJAなどと機能拡充について検討していく予定である。
- ・ 農道整備事業については、交通を円滑にし、農用地管理の省力化を図るため、農道の計画的な整備を要望した。今年度は上田線など5路線を整備し、今後は毎年度一定の額を予算化し、順次整備していく予定である。
- ・ 林道整備事業については、森林資源の有効活用と自然環境の観点から林道の整備と老朽化している東北自動車道路の跨道橋の耐震性や耐久性の調査等を要望した。今年度は今里羽黒山線の整備を400m実施し、今後は毎年度一定の額を予算化し、順次整備することを予定している。なお、東北自動車道の跨道橋については、安全性確保の観点から、事業の必要性は高く、関係機関と連携を図りながら、早期の事業化に向けて取組む予定である。
- ・ 地域交流館整備事業については、滞在型都市交流事業等を推進するために、簡易宿泊兼休憩施設の早急な整備を要望した。今後は地域交流館の機能の充実・強化に向けた整備のあり方について、上河内全体の観光資源の活用やソフト事業の開発などを含めた中で検討していく予定である。
- ・ (仮称)モラージュ上河内の誘致推進については、まちづくり三法の改正に伴う課題や関係機関との協議・調整が必要であるが、地域の活性化につながることから、第5次総合計画や今後改定していく都市計画マスタープランなどと整合を図りながら検討していく。
- ・ 国道293号、主要地方道藤原・宇都宮線、県道小林・逆面線の早急な道路整備については、各整備促進期成同盟会等に10月と11

会長	月に要望活動をしていく。
会長	・今の説明について、各委員から意見を求める。
事務局	・公共下水道整備事業において、平成19年度と比較し平成20年度の整備面積が増えているにもかかわらず、予算額が少ない理由を説明してもらいたい。
会長	・工事内容によるため予算額と面積は比例しない場合もある。
事務局	・地域交流館整備事業については、ゼロ回答と解釈するのか。
委員	・まちづくり懇談会での提言に対する回答にもあったように、羽黒山や梵天の湯などを核とした周辺施設の活用も総合的に検討していることから、少し時間をもらいたい。
事務局	・下水道整備区域の非接続は何軒くらいあるのか。また、非接続に対する対策はあるのか。
委員	・センターには担当者がいないため、詳しくは分からない。担当部局では一定の方針や基準があると思われる。
事務局	・農道整備事業の中で、具体的な路線場所と整備する順番はどのように決めていくのか。
委員	・補助事業では上田、西芦沼を予定し、単独事業では上小倉、下小倉、東芦沼を予定している。整備にあたっては地域の情報を受けたうえで本庁が判断している。
事務局	・モラージュの誘致推進や国・県道の道路整備について口頭による説明であったが、資料の写しや文書でもらえないのか。
事務局	・この件については、合併市町村基本計画に載っていないこともあり、関連事項であるが文書での回答は難しい。
(2) 上河内地域自治センターにおける当初予算の概要について	
会長	・「上河内地域自治センターにおける当初予算の概要について」を事務局より説明願いたい。
事務局	・(地域経営課の主な事業として自治会議の運営、空きスペースの有効活用等について説明)
事務局	・(地域づくり課の主な事業として地区体育祭、スポーツ大会、自動交付機等について説明)
事務局	・(保健福祉課の主な事業として移送サービス、親子の健康相談等について説明)
事務局	・(産業土木課の主な事業とし各種イベント、市道の維持管理費や公園維持管理等について説明)
会長	・第2回自治会議においての資料では、地域自治センターに関する平成19年度当初予算概要として事業別に予算額が示されていた。平

	<p>成20年度当初予算概要の資料では様式を変えているが意味があるのか。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の資料は、平成20年度の各課の主な事業を理解してもらうため作成した。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域自治センター会議室の空きスペースの有効利用として地域の各種団体等へ事務室を利用させる考えはないのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり組織を作っていく中で、団体の打合せなどをするために活動拠点が必要であることは認識している。今後1階事務室の西側に空きスペースがあるため、拠点としての利用を検討していきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・利用できる時間帯について、どのように考えているか教えてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・施設管理の上から、現時点では執務時間内としたい。しかし、団体等の利用には夜間や土曜日、日曜日にも配慮する必要があることから、平成21年度に向けて検討していきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度地域自治センターの予算説明の中で、平成19年度限りで防犯灯設置等に係る予算がなくなるということであるが、平成20年度から防犯灯の修繕費用は、自治会が負担していくのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度から防犯灯の設置、維持管理費は各自治会が負担することになるため、これらに係る費用を市が一定額を助成していく。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習センターと上河内体育館の使用料について、登録団体については減免となっているようだが、未登録の団体でも100パーセント減免となる場合があるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・明確な資料がないため、後日回答させてもらいたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習センターや上河内体育館などを自治会が使用する場合は、100パーセントの使用料の減免がないと自治会等の活動に制約を受けるため、全市的に考えて欲しい。 ・上河内中学校に武道館がないことから中学生が上河内体育館を利用する場合もあると思う。この場合でも減免にならないのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・確認後、後日回答させてもらいたい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・産業土木課の本年度予算の15,917千円の減額理由は、産地づくり助成金に係る予算が本庁に移行されたためと説明しているが、昨年度と比較した場合、産地づくり助成金の予算が4,600千円であることから、事業の主体が本庁に移行したと解釈するのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・その他に土地改良費や農産奨励費等の減額された予算が含まれているが、産地づくり助成金は一時的に本庁が予算を確保している状況である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護は民生委員からの要請にも応じてもらえるのか。

事務局 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・状況等により判断させてもらいたい。 ・健康づくり推進については、主にどのような場合に対応しているのか。
事務局 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・保健センターにおいて、一例で説明すると子育てに関する親の悩み事等の相談を受けている。 ・体育館の使用について障害者が利用する場合は、無料になるのではないか。
事務局 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・確認して後日回答したい。 ・補足となるが産業土木課の予算が減額となった理由として、産地づくり交付金の予算は、スケールメリットがあるため本課で一括管理し、センターに再配分する予算構造になっている。
5 協議事項	
答申に向けた今後の対応について	
会長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「答申に向けた今後の対応について」を事務局から説明願いたい。 ・始めに実施計画と当初予算案の概要について説明する。 (実施計画の概要及び平成20年度当初予算案の大綱を説明)
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・答申については、スケジュールのとおり7月下旬に予定しているため、計画的に協議していく必要がある。そのため第1回自治会議で答申書の全体の枠組みをつくり、13事業の進捗状況を分析し整理して枠に当てはめていく手法もあると思うが、各委員の意見を伺いたい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局の考えは柱を最初に組み立てる構想であるが、理論構成や表現の仕方について委員から豊富な意見を出してもらうことが答申書を作成するうえで重要である。従って、答申への回答に対して感じたことや、平成20年度の答申書の形をどのように考えていくか共通認識をしたいので委員一人ひとりから意見を伺いたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・旧町と同様に住民票証明手数料等が、新年度から安くなることは合併の効果と思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・回答に対し物足りなさを感じるため、答申内容に主張が足りなかったのではないかと思う。次の答申では、梵天の湯や羽黒山などを中心とした観光施設の整備に重点を置くべきである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・未完了の事業については、答申するうえで内容を分析したいので期限を含めて理由を明確にしてもらいたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況を踏まえた要望が必要ではないか。また地域がモラージュ誘致を期待しているので、引き続き要望すべきである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に密着した内容の要望とし、平成19年度に漏れた内容も検証

	し、追加すべきである。
委員	・答申書の形は前年を踏襲し、これに地域が求めている魅力や活力が高まるような新しい項目を追加してはどうか。
委員	・13事業を分析したうえで、効果的な事業が展開できるよう枠組みを変えたほうが良いのではないかと思う。またモラージュは地域の発展に繋がるため、継続して答申していくべきである。
委員	・ある程度実現して欲しい事業を絞っていくべきではないかと思う。また、モラージュについては、誘致だけが目的ではなく、周辺の総合的な整備計画も含めインパクトを強くして具体的に要望すべきである。
委員	・観光に関し、地域において多くの人たちが交流できるような、魅力ある地域をつくるための見直しを行い答申すべきである。
委員	・平成19年度に答申した内容と同様に、段階的に項目をまとめあげた形式が良いと思う。
委員	・各事業の進捗状況を踏まえたうえで内容を検討し、そこに地域の個性や優位性を加えるべきである。
委員	・基本的には、従来の答申書の形が良いと思う。また地域の交通手段となっているユッピー号による交通網の整備拡充について、考えるべきではないか。
委員	・スマートIC接続道路の整備によって、県道小林・逆面線の整備についても促進されることから、この事業を優先とした答申とすべきである。
委員	・回答の中で事業期間が定まった事業については、早期事業を促す意味で引き続き要望し、また年度別に計画的に実施して行く事業も、具体的な状況の変化に伴う新たな考えや数値的なものを付け加えるべきである。
委員	・モラージュについては、明確な回答が得られていないことから再度要望すべきである。
委員	・まちづくりを議題としたグループ会議の動きの中で、提案できる意見があれば答申に加えるべきである。
委員	・重点的な課題として、大型商業施設と観光に関し絞って答申すべきである。
委員	・主要事業については、平成20年度の進捗状況を勘案し更に具現化し、いくつかの柱を立てた答申内容とすべきである。
会長	・合併後の地域が豊かで活力ある地域であるためにはより実効性のある対策として、この13事業を推し進める必要がある。今の貴重な

	意見は、答申書を作成するうえで重要な流れになるものと理解する。については、再度各グループ内において意見交換や検討を行い、次回自治会議までに考えをまとめてもらいたい。
6 その他	
会長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・その他の件で委員や事務局から何かあるか。 ・連絡事項となるが、第1回自治会議は4月下旬の開催を予定している。また、第2回自治会議の視察研修は、5月22日を予定している。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・以上をもって、第7回宇都宮市上河内自治会議を終了する。